

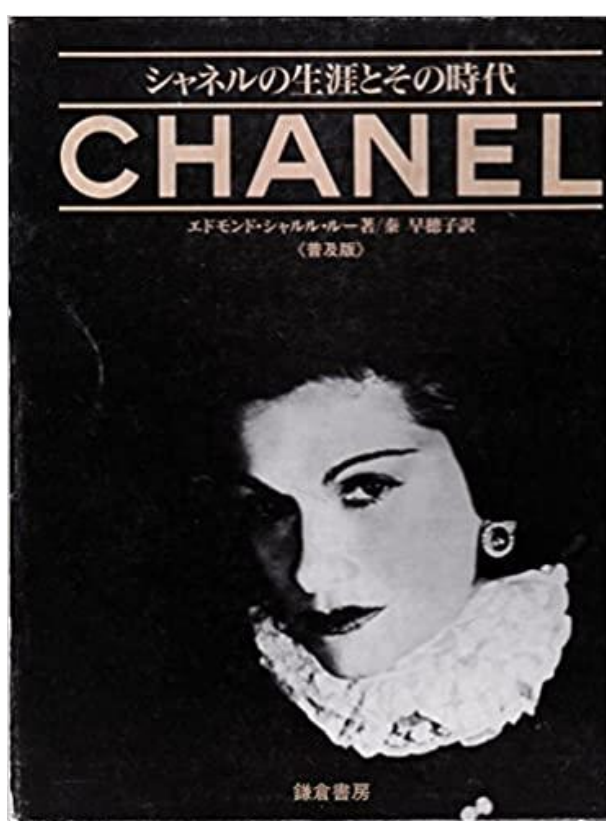
## 1. 研究の背景と目的

「CHANEL」の創業者ココ・シャネルは「女性をコルセットから解放した」、「婦人服へのジャージー生地を導入」等、女性の社会的進出に影響を与えた人物として語られている。服飾は社会の影響を大きく受けるが、服飾の側が社会の変化に影響を与えることもある。本研究では、社会の変化に影響を与えたとされるシャネルに注目し、シャネルが女性の社会進出にどのように関係したのかを検討する。

## 2. 研究方法

ライフコースとは歴史の中で個人が歩む「コース」であり、個人の経歴が社会の歴史的出来事や歴史変動に枠づけられるとともに、ライフコースのパターンが社会変動に影響を与えられている。

本研究はライフコース研究の手法を用いて、ココ・シャネルに関わる文献、論文、新聞記事及びWebサイトの記事を資料として、シャネルの生涯を歴史的空間の中で位置づける試みを行い、シャネルの創作活動の社会的影響を検討する。



参考にした文献例  
 左：鎌倉書房 1990  
 右：KADOKAWA 新装版2017

## 3. 結果及び考察

### (1) 社会変動とシャネルの創作活動

1883年にフランスのソーミュールで誕生したシャネルは、1908年に25歳で帽子のデザインで頭角を現し、1914年に始まる第1次世界大戦のさなかの1916年に、ウエストのゆったりしたジャージー素材を使用したドレスを発表する。この服は戦時に労働しやすい実用的な服を求める女性の需要に応えるものであった。コルセットから女性の身体を解放するデザインは、すでにブルーマー、ヴィオネ、ポワレなどにより考案されていたが、素材の点でもデザイン的にも実用的であった。さらに、1929年の大恐慌以降の質素儉約を求める時代に、1926年に発表した黒一色のシンプルなりトルブラックドレスが女性のドレスの定番になっていった。

戦後は、1954年に男性用のスーツの仕立てや素材を女性用に取り入れた「シャネルスーツ」を発表。

女性の社会進出に応えるスーツであった。1955年にそれまで男性用でしかなかったショルダーバッグを発売。社会進出する女性の望むものであった。シャネルは戦中戦後の空白期があるものの、1971年に87歳で亡くなるまで活動を続けた。

### (2) シャネルの創作活動に影響を与えた人びと

シャネルは多くのパトロンやパートナーとの出会いによって才能を開花させていった。バルサン,E.は帽子屋の資金提供を、カペル,A.はジャージー生地のドレスを商品化したメゾン開業の援助をし、ディミトリ,P.はシャネルの香水「No.5」の調香・開発者を紹介し、セール,M.は長年の友人であった。なお、女性の社会進出に貢献したが、フェミニストとの交流は認められなかった。

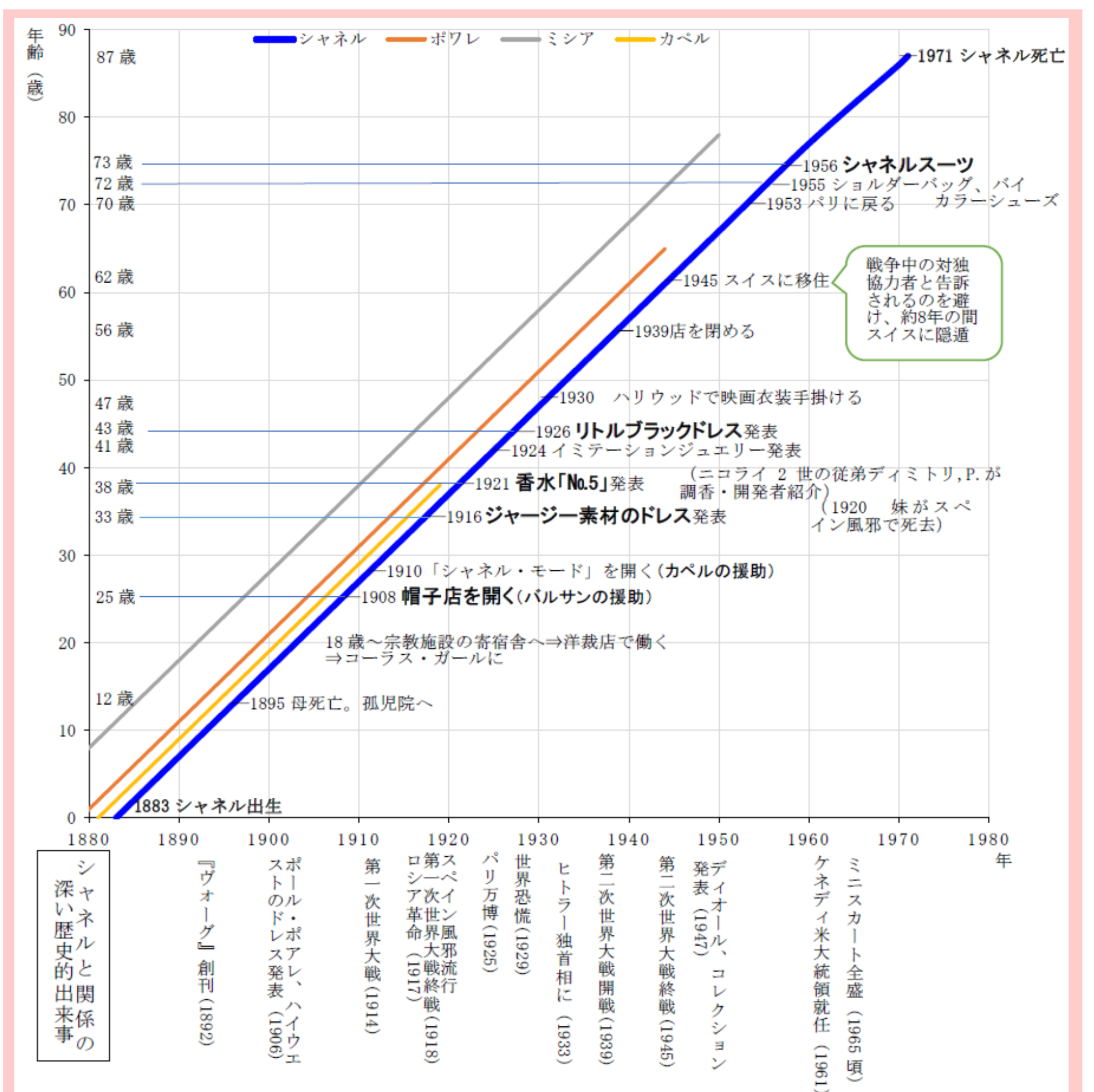


図 ココ・シャネルのライフコース

## 4. 総括

シャネルの活躍した20世紀は戦争や大恐慌など世界を大きく揺るがす歴史的出来事があり、そうした出来事は女性の活動の幅を広げ、実用的・活動的な服装を求めるようになった。シャネルの作品は時代の求めるものであった。一方、シャネル自身も、窮屈で女性を飾り立てる服装に疑問を持ち、快適性、実用性に富み、シンプルで上質な服装を追求した。シャネルが女性の社会進出に影響したとされるのは、男性の求める美しさではなく、衣服を纏う女性自身のためのデザインを考案し続けたからであると考えられる。